

教職支援センター教員養成支援部門における教員採用対策

—その成果と課題—

内田 実*・溝口宏彦*・伊藤信成*

Our measures in the Division of Teacher Training Support against teacher adoption
— achievements and problems of our contributions —

Minoru Uchida *, Hirohiko Mizoguchi*, and Nobunari ITOH*

要 旨

三重大学教育学部附属教職極支援センターの一部門である教員養成支援部門では、主として教員採用試験に向けての対策セミナーの実施を通じて、教職を希望する三重大学生の支援を行っている。この教員採用試験対策セミナーは年間の開催回数が280回を超え、年間でのべ4000名以上の学生が参加している。部門設置から15年目を迎え、これまでの活動の成果と課題をまとめた。教員採用における占有率が微増にとどまっている状況などの課題も浮き彫りになってきているが、教員採用対策セミナー参加者の合格率が有意に高くなっており、支援の成果が表れている。

キーワード：教員養成支援，教員採用試験，成果，課題，セミナー

1. はじめに

教員養成支援部門（旧 教職支援室）は、学生や保護者から面接や実技の練習を指導してほしいとの要望が出されたことをきっかけに平成19年度に誕生した。当時は小学校教員採用者数が増えつつあったにもかかわらず、採用試験の現役合格者数が10数名であり、1桁の年さえもあった。教員志望の学生や保護者が不安を抱き「何らかの対策をしてほしい」との強い要望が出された。それまでは学生の自主的な受験対策に同窓会事務局と父母連絡会事務局職員が個人レベルで指導・助言を行うにとどまっていたが、合格者が1桁という厳しい現実に対し、大学が組織としての支援対策に踏み切る形で現在の教員養成支援部門が設立された。

文科省の「令和元年度（平成30年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント」（文部科学省, 2019）によると全国の小・中学校教員の採用倍率は、平成3年から上昇し始め、平成12年にピークを迎えその後下降し続けている。また、受験者数が、平成24年頃をピークに減少に転じたことから競争倍率はさらに低下傾向を強めている。特に小学校教員の競争倍率は、1倍台になっている自治体のみならず今後の対応が急務とされている。受験者数の減少は少子化や民間企業の採用状況の好転、近年のマスコミが報道する学校の労働環境のネガティブなイメージ等が影響していると思われる。一方で、東海3県の競争倍率は比較的高く、特に三重県の倍率は全国的に見ても非常に高い状況が続いている。そのため、教員採用試験のに向けた取り組みの必要性は依然として高い。本論文では、教員養成支援部門での教員採用率向上に向けた取り組みを紹介するとともに、その成果と課題を議論する。

2. 教員採用率向上に向けた取り組み

教員養成支援部門では、教員採用の受験率および採用率の向上に向けて、ハードとソフトの2種の取

* 三重大学教職支援センター教員養成支援部門

り組みを行っている。これらの取り組みは、教員養成支援部門の教員のみでなく、教育学部の就職委員会メンバー、情報教育課程の教員、および教育学部同窓会の協力の下、行われている。

2.1 教員採用試験サポートシステム

教員養成のハード面からの支援として、教員採用試験サポートシステム（電子掲示板）が構築されており、学生と教員養成部門とのコミュニケーションツールとして利用している。このシステムには、教員採用試験を受験する他学部を含む全ての学生が登録しており、支援部門からの一斉メール配信や動画を含む様々な情報提供、全国の過去問の掲載、学生からのアンケートの回答や質問等の収集のツールとして活用している。また、現役学生だけでなく、次年度に再度受験予定の卒業生にもセミナー開催情報や受験案内、講師募集情報等を発信している。なお、このシステムは情報教育コースの教員の支援を受けて運用されており、必要に応じてフォーラムを後付けできるため大変有用なものとなっている。

2.2 教員採用試験対策セミナー

教員養成のソフト面からの支援として、教員採用試験対策セミナーを実施している。2019～2020年のセミナーの年間実施計画を表1に示す。セミナーは教員採用試験受験の前年度（3年次）の11月から始まり教員採用の2次試験が終了する8月末までを1つのサイクルとしている。表1からわかるように、セミナー開催期間中はほぼ毎週何らかの取り組みを行っている。これらの活動は、校長経験者を講師に迎え実施している取り組みがほとんどであり。また講師の派遣については、教育学部父母連絡会および同窓会から多大なるご協力をいただいている。また一口に対策セミナーと言っても、その内容は多岐に及び、細かく分類すると20種近くにも達する。各種セミナーの具体的内容を以下に紹介する。

表1：教員採用試験対策セミナーの年間計画：2019～2020年度の例

11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月	
1	金	1	日	1	水	1	土	1	日	1	水	1	金	1	月	個人面接練習	1	土	教育実習事後指導 論文文◎ 免
2	土	2	月	2	木	2	日	2	月	2	木	2	土	2	火	個人面接練習	2	日	
3	日	3	火	3	金	3	月	3	水	3	金	3	日	3	水	個人面接練習	3	金	集計・個面・模擬・体 育◎
4	月	4	水	4	土	4	火	4	木	4	土	4	月	4	木	個人面接練習	4	土	集計・個面・模擬・音 楽◎
5	火	5	木	5	日	5	水	5	金	5	日	5	火	5	金	個人面接練習	5	日	集計・個面・模擬・体 育◎
6	水	6	金	6	月	6	木	6	金	6	月	6	水	6	土	個人面接練習	6	月	
7	木	7	土	7	日	7	火	7	水	7	木	7	金	7	土	個人面接練習	7	火	集計・個面・模擬・体 育◎
8	金	8	日	8	月	8	水	8	木	8	金	8	土	8	日	個人面接練習	8	月	
9	土	9	月	9	火	9	水	9	木	9	金	9	土	9	日	個人面接練習	9	月	
10	日	10	火	10	水	10	木	10	金	10	土	10	日	10	月	個人面接練習	10	火	三重・愛知1次発表 会◎
11	月	11	水	11	土	11	日	11	月	11	火	11	水	11	木	個人面接練習	11	水	集計・個面・体育◎
12	火	12	木	12	金	12	月	12	火	12	水	12	木	12	金	個人面接練習	12	土	集計・個面・音楽◎
13	水	13	金	13	月	13	水	13	金	13	月	13	水	13	土	個人面接練習	13	火	集計・個面・体育◎
14	木	14	土	14	日	14	月	14	火	14	水	14	木	14	金	個人面接練習	14	日	
15	金	15	日	15	月	15	火	15	水	15	木	15	金	15	土	個人面接練習	15	月	
16	土	16	月	16	火	16	水	16	木	16	金	16	土	16	日	個人面接練習	16	火	
17	日	17	火	17	水	17	木	17	金	17	土	17	日	17	月	個人面接練習	17	火	三重・愛知1次発表 会◎
18	月	18	水	18	土	18	日	18	月	18	火	18	水	18	木	個人面接練習	18	水	集計・個面・場面指 導◎
19	火	19	木	19	金	19	月	19	火	19	水	19	木	19	金	個人面接練習	19	土	集計・個面・場面指 導◎
20	水	20	金	20	月	20	火	20	水	20	木	20	金	20	土	個人面接練習	20	日	三重・愛知1次発表 会◎
21	木	21	土	21	日	21	月	21	火	21	水	21	木	21	金	個人面接練習	21	火	
22	金	22	日	22	月	22	火	22	水	22	木	22	金	22	土	個人面接練習	22	日	
23	土	23	月	23	火	23	水	23	木	23	金	23	土	23	日	個人面接練習	23	月	
24	日	24	火	24	水	24	木	24	金	24	土	24	日	24	月	個人面接練習	24	火	三重・愛知1次発表 会◎
25	月	25	水	25	土	25	日	25	月	25	火	25	水	25	木	個人面接練習	25	水	集計・個面・音楽◎
26	火	26	木	26	金	26	月	26	火	26	水	26	木	26	金	個人面接練習	26	土	
27	水	27	金	27	月	27	火	27	水	27	木	27	金	27	土	個人面接練習	27	日	集計・個面・模擬 水泳実技◎
28	木	28	土	28	日	28	月	28	火	28	水	28	木	28	金	個人面接練習	28	火	集計・個面・模擬 水泳実技◎
29	金	29	日	29	月	29	火	29	水	29	木	29	金	29	土	個人面接練習	29	日	集計・個面・模擬 水泳実技◎
30	土	30	月	30	火	30	水	30	木	30	金	30	土	30	日	個人面接練習	30	月	
		31	火	31	水	31	木	31	金	31	土	31	日	31	月	個人面接練習	31	火	集計・個面・模擬 水泳実技◎

① 教員採用試験対策セミナーオリエンテーション

教員採用試験受験希望者に対しセミナーオリエンテーションを年3回開催している。教育学部生だけでなく、教員採用試験受験を希望する人文学部と生物資源学部の学生にも門戸を開き、毎年150名ほどが参加し次のような内容で行なっている。

- ・第1回 (11月) 8月末までのセミナー年間実施計画と内容説明、
学生の受験希望自治体と校種等の調査等
- ・第2回 (4月) 1次試験対策セミナーの説明(内容と実施計画)
- ・第3回 (7月) 2次試験対策セミナーの説明(内容と実施計画)

② 教職教養対策講座

全国共通の試験科目となっている教職教養に関する基礎的知識を高めるためにDVD講座を行っている。学生が教育原理、教育法規、教育心理、教育史、教育時事、学習指導要領についてまとめられたDVDを視聴することで教職教養に関する知識と理解を深める内容となっている。

③ 小学校専門対策講座

小学校専門試験の対策として、小学校全教科の専門知識と指導法に関するDVD視聴を行っている。

④ 個人面接練習

2～3月期、5～6月期、7～8月期の3期に渡って実施している。同窓会の協力を得て小・中学校の校長経験者を講師として招聘し、志望動機、目指す教師像、自分自身の経験等を中心に過去に問われた内容も含めて語る練習を行っている。練習を通して学生は、自分自身を見つめ直すとともに教職に対する適性や理解を深めている。

⑤ 場面指導練習

多くの自治体が場面指導を課していることや個人あるいは集団面接においてもどのような指導を行うかを問われることがあるため、児童生徒対応や保護者、地域住民との様々な場면을想定し演習している。採用試験に合格することだけを目指すのではなく、児童生徒理解、保護者の思いや学校を支える地域住民の考えを理解することで、教育現場で活用できる実践的な指導を行っている。

⑥ 模擬授業練習

与えられた条件(教科、単元、児童生徒の学習状況等)で授業構想シートに指導略案を短時間でまとめ、面接官に1分間の授業構想を説明した後10分間の模擬授業を行っている。特に「めあてと振り返り」がなされているか、与えられた課題の解決策が盛り込まれているか、板書や目線、声の大きさ、話す速さ等についても指導している。

⑦ 集団面接練習

5人～8人程度の人数を想定し、集団面接の特性を加味した練習を行っている。集団で行う場合、個人面接とは異なり他人の意見に左右されたり、安易に同調してしまうことが起こり得るので、その時の対応についても指導している。回答順を指定したり、挙手によるランダムにしたり、学生によって質問内容を変えるなどして変化をつけることで様々な自治体の実施方法に適応できるよう工夫している。

⑧ 集団討論練習

教育課題や場面对応等のテーマについて討論することで、協調性や教職に対する意欲の向上に繋がっている。また、討論を行う際の発言方法や時間の使い方、討論の質の向上などについても指導している。三重県においては、2次試験でディベート形式の討論が課されているため、三重県受験者については別途練習機会を設けている。ディベート形式の討論では、賛成と反対の立場に分かれ教育課題だけでなく時事問題についても討論し、決して相手の意見を論破することを目指すのではなく、異なる意見や考え

に対し否定ではなく、理解を示しながらも自身の意見の優位性を強調したり、同じ立場の人の意見を聞きながら意見をまとめる練習を行っている。

⑨ 教採討論会（自主練習会）の開催

毎週水曜日に時間を確保できた学生が自主的に集まり、集団討論を行っている。支援室で教室を90分間借用し、討論グループをランダムに変えながら教育課題に関するテーマについて討論を行っている。これは講師を立てずに学生たちが自由に討論を行うことで、知見を広めるとともに教職へのモチベーションを高めている。

⑩ 実技試験対策

小学校実技試験対策として、ピアノの弾き歌い、マット運動、水泳について同窓会OBの講師を招聘し指導している。また、自治体によっては球技や縄跳びなどを課しているところもあるので、学生の希望によりそれらについても指導している。水泳は、大学近くの民間プールを7月に5日連続で1日当たり2時間2レーンを借り上げ平泳ぎ又はクロールを25メートル泳ぎ切れるよう練習している。

⑪ 論作文・論述対策講座

多くの自治体が論作文や論述試験を課しており対策が必要である。論作文や論述指導は経験と専門的な要素が含まれているため外部の専門家に指導を依頼している。教育課題や過去問を例題にし、学生個々の答案を添削指導していただいている。

⑫ 幼保採用試験対策講座

幼児教育コースの学生の多くは幼稚園教諭又は保育士を目指している。支援室職員は小中学校の経験者であるため専門家を招聘し、筆記試験や面接対策を指導していただいている。

⑬ 全体面接練習会

毎年1次試験を控えた6月下旬に教育学部の先生方とOBの校長経験者が3名1組の面接官となって、本番同様の形式で面接練習会を実施している。原則全員参加とし、卒業生にも参加を呼びかけ150名前後の学生が参加している。

⑭ 面接テーマノートの作成

毎年面接で問われる課題について、学生がA4用紙1枚にまとめ全員分を1冊のノートに仕上げ、面接や論作文、論述等の対策に活用している。テーマは、教育時事に関するものや学習指導要領、生徒指導に関するもの等多岐に渡っており、1冊あたりおよそ150ページになる。

⑮ 受講カードの作成

学生が受講したセミナーを記録するため受講カードを作成し、一人1枚配布している。カードには受講したセミナーと日付を記録し、学生のモチベーションの維持向上と受講状況の把握のために活用している。1枚当たり50件の記録が可能であるが、中には2枚を超える学生もいる。

⑯ 教育委員会による教員採用試験説明会（三重県、愛知県、名古屋市等）

三重県2回、愛知県と名古屋市は1回、教育委員会の人事担当者を招聘し、各自治体が求める教師像や採用予定者数等についての講話をいただき、学生からの質問にも丁寧に答えていただいている。緊張感を持って直接人事担当者から話を聞くことで学生は受験に対するモチベーションを高めるとともに、教師になることへの意識を高めている。

⑰ 全国教員採用模擬試験

全国規模で年間4回行われている教員採用模擬試験を受験することで、学生の受験時点での受験対策の進捗状況や自治体別の合格可能性を計っている。試験は教職教養、一般教養、教科専門、論作文等から選択して受験することができる。受験は学生の任意であり受験料は自己負担としている。

⑱ 相談活動

教職支援センター教員養成支援部門における教員採用対策

学生は採用試験そのものだけでなく教職や職業選択等様々な悩みや不安を抱えている。教育学部へ入学した理由も様々であり、当初から教職に就くことを考えていない学生も相当数いる。また、中には採用試験を受けるものの、親等から教員になることに一方的な期待をかけられ葛藤を抱いている学生もいる。学生たちの不安を少しでも解消するとともに、今後の人生設計のヒントやアドバイスを提供することで進路選択の一助となっている。

⑭ 講師登録説明会

教員採用試験を受験したものの不合格となった学生は、講師として学校で教職に就く、教職以外の職業に就く、大学院進学のいずれかを選択しているが、多くは講師の道を選択している。そのため津市教育委員会の担当者を招聘し、講師採用のための登録方法や教育公務員として学校で働く意義や義務などについて話をさせていただいている。

以上がセミナーの具体的内容である。各セミナーへの参加者数の一覧を表2に示す。教員養成支援の活動は年間で300回近く行われており、年度により若干の増減はあるものの、のべ4000名程度の学生が受講している。

表2：各セミナー参加者数：2019年10月～2020年8月

時期	活動	実施回数	参加者数
2019年10月 2020年3月	講師登録説明会(68期生対象)	1	29
	教採セミナーオリエンテーション	2	139
	ウインターレビュー(教職教養特別対策講座)	51	919
	面接練習説明会	1	101
	個人面接練習	20	274
	DVDセミナー(小学校 国、社、数、理、外)	15	56
	保幼対策(68期対象)	6	25
	体育実技特別講座	1	25
	学内模擬試験	1	55
	三重県教採説明会	1	88
愛知県教採説明会	1	17	
2020年4月 2020年8月	教採セミナーオリエンテーション	1	200
	面接練習(集団討論:オンライン)	27	489
	個人面接練習(オンライン)	39	264
	一次論作文	1	41
	保育園・幼稚園対策講座	13	58
	学内模擬試験	1	53
	二次対策オリエンテーション(オンライン)	1	98
	模擬授業練習(対面)	18	214
	模擬授業+個人面接練習(対面)	39	253
	体育実技(マット運動)	7	42
	論作文(愛知県型)対策講座(オンライン)	2	13
	論述(三重県型)対策講座(オンライン)	4	161
	場面指導	6	69
	卒業生向け面接練習	2	6
	集団討論練習(オンライン)	26	471
三重県教採説明会(オンライン)	1	93	
合計(延べ数)		288	4253

3. 成果と課題

教職支援室として始まった教員養成支援の活動は令和 2 年度で 14 年目を迎える。これまでの活動の成果を振り返り、今後の活動に向けての課題を検討する。

3.1 成果

① 採用者数・合格率の推移

過去 15 年間の三重県小学校教員採用者数と採用試験を受験した教育学部現役生の結果及び全受験者の結果を図 1 に示す。中学校、高等学校、特別支援学校については、受験者数、採用者数が少ないことや教科と年度によりバラつきがあることから省略した。現在行っている教員採用試験サポートは、平成 20 年に教員採用試験の合格率低いことから、教育学部父母連絡会等で対策をしてほしいとの強い要望が出され、対策が開始された。平成 20 年以前の合格率から比べるとその成果は歴然としており、合格率は中高を含め確実に上昇している。また、採用者数に対する本学学生の占める割合（占有率）も対策を始める以前と比べると 3～4 倍程度まで上昇しており成果を見ることができる。さらに、他府県を含む全ての教員採用試験の合格率も 2 倍以上の上昇となっている。これは、単に採用試験の突破だけを目指した指導ではなく、教職の魅力や現場で必要とされる人材の育成を目指した幅広い取り組みの成果であると考えられる。

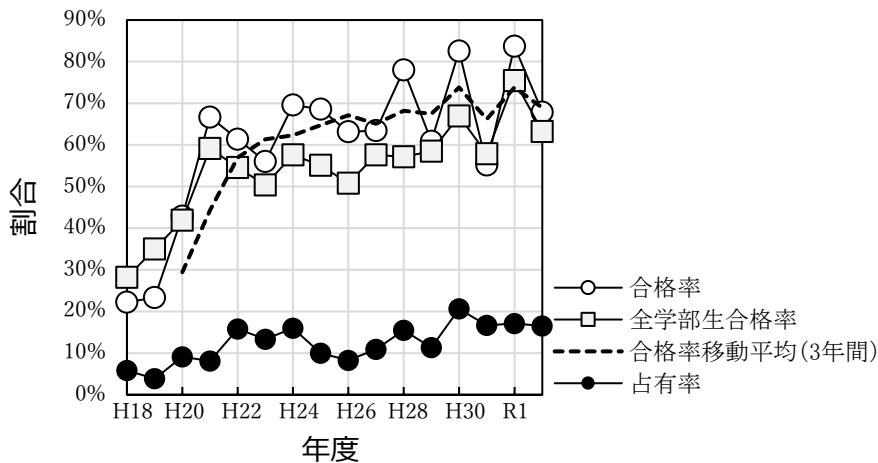


図 1：三重県小学校教採合格率・学部生合格率推移

② セミナー参加回数と採用者数・合格率の相関関係

セミナーに参加した回数と合格率の相関関係を図 2 に示す。参加回数が増えるに従い合格率が上昇していることが見て取れる。面接練習 7 回以上の学生の合格率は 4～6 回の学生の 2 倍近くに上る。これは、セミナーの効果はもちろんであるが、学生の教員になりたいという意欲の表れの一つであろう。

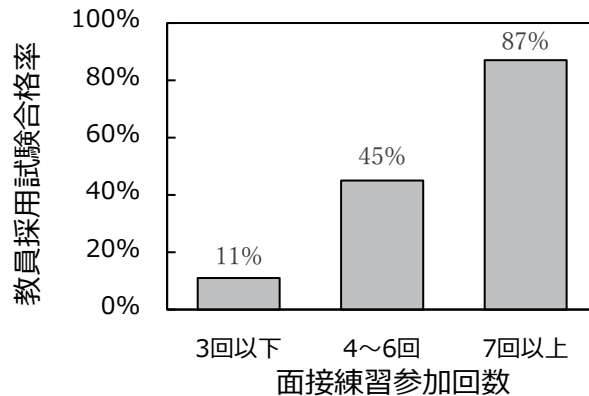


図 2：面接練習参加回数と教員採用試験合格率の関係

③ 同窓会・父母連絡会との連携

他大学の教員採用試験のサポート体制は専門学校に委託をしたり、大学が取り組んでいるところもあるが、一部の私立大学を除いてその多くは4年生の4月から開始し、面接のマナー講習程度のものである。本学では3年生の11月から開始し、幼稚園・保育園の採用試験が終わる10月まで継続して行っている。また、専門学校に委託しているところは非常に高額な受講料を学生が自己負担しているが、本学では同窓会と父母連絡会が全面的に人的・経済的支援を行っているため学生の金銭的負担は発生していない。このような取り組みは全国的にみて非常に稀なものである。学部と同窓会・父母連絡会が緊密で良好な関係を維持していることが、この体制の基盤となっており、今後も継続が望まれる。

3.2 課題

これまでの活動から成果も多く出ているが、一方で課題もある。ここではこれまでの取り組みから浮き彫りになった教員採用に対する課題を挙げる。

① 教員採用者数・三重県小学校占有率と受験率

全国の教員採用者数は平成20年を境に毎年少しずつ増加を続けているが、受験者数は減少する傾向にある(出典)。これについては様々な要因が指摘されているが、三重県においては顕著な減少傾向はみられない。本学における受験者数は毎年学部生の60%台前半を推移しており、過去10年間大きな変化はない。昨年度の学生は、「ゼロ免コース」が廃止された年度の入学生であったが、受験率が変化しなかった。このことの要因については今後さらなる検討が必要であると考えられる。

② 教採受験率向上

三重大学教育学部では平成25年度に公開したミッションの再定義において、小校教員合格者占有率を35%まで上げることを掲げている。しかしながら、図1に示したように現在のところ目標値の半分程度にとどまっている。この35%を達成するためには、合格率を単純に上げるだけでは不可能な数字である。仮に採用者数が240人として、35%の占有率は84名という数字になり、現在受験者数が50名前後を推移していることから、合格率が100%であっても届かない数字である。受験者数が現在の50名前後で推移し続けると、例えば合格率が90%に達したとしても採用者数が130名程度にまで減少しないと達成できない目標値である。このことから目標を達成するためには、今後少子化が進むことから採用者数はこれ以上伸びることは考えにくいので、受験者数を増やすこと以外に方法はない。占有率を35%に設定し、目標を達成するための受験者数と合格率の関係をシミュレーションしてみると表3の表のようになる。表3から現実的な数字として、今後採用者数200人、合格率85%あたりが現実的であると考え、現在の受験者数から35名程度増やす必要がある。

表3：目標達成するための採用者数と合格率からみた必要受験者数

採用者数(任)	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250
目標値35%人数(任)	46	49	53	56	60	63	67	70	74	77	81	84	88
合格率100%	46	49	53	56	60	63	67	70	74	77	81	84	88
合格率95%	48	52	55	59	63	66	70	74	77	81	85	88	92
合格率90%	51	54	58	62	66	70	74	78	82	86	89	93	97
合格率85%	56	58	62	66	70	74	78	82	86	91	95	99	103
合格率80%	63	61	66	70	74	79	83	88	92	96	101	105	109
合格率75%	75	65	70	75	79	84	89	93	98	103	107	112	117
合格率70%	90	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125
合格率65%	116	75	81	86	92	97	102	108	113	118	124	129	135

これまで 50 名前後である小学校受験者数をさらに 35 名程度増やすことは容易ではないが、行い得る対策としては次のようなものが考えられる。

- a) 教職の魅力や遣り甲斐を学年の早い段階で学生に伝える機会を増やす。
- b) 大学入試を教員養成学部であること全面的に打ち出して実施する。
- c) 高校生に対し教職の魅力や三重大学教育学部のサポート体制を様々な機会を通してアピールする。
- d) 小学校教員の免許取得者を増やすための学内制度を強化する。
- e) 県内の小中学校との連携をさらに強化し、三重県の教育界における存在感をより高める。

他にも様々な方法が考えられるかもしれないが、最終的に教職を選び、さらに小学校教員を目指すのは学生自身の選択権である以上、特効薬的な方法はないと思われる。しかし、何らかのアクションを起こし、且つ持続的な取り組みを行わない限り目標達成は非常に厳しい現状にある。

③ 卒業後の支援体制づくり

現在の教育現場は社会の変化とともに抱えるものが大きく、そして多様になっている。小学校では、道徳や英語が教科化されるとともに教科担任制の導入も検討されている。また、社会変化とともに児童生徒対応や保護者対応は複雑化し大きな負担となっているところがある。教員養成支援部門では、セミナーを通して現場で活かせる力を養成しているところであるが、「採用試験に合格すればそれでよし」ではなく卒業後も授業や児童生徒指導等に関する様々な相談に気軽に来れるような体制をつくることも必要であるとする。卒業後もサポートを受けることができる環境を提供することで、安心して教職を目指すことが可能となり教職を目指す学生の増加につながることを期待される。

4. コロナ禍における対応

令和 2 年度の教員養成支援活動は新型コロナウイルス感染症対応のため、通常とは異なる対応となった。ここでは令和 2 年度の活動を振り返り、オンラインでの教員養成支援の在り方について考察する。

令和 2 年 4 月以降大学の授業が新型コロナ肺炎感染防止策として学生の入構が禁止され、全ての授業がオンライン化された。これに伴い、教員養成支援部門が実施するセミナーも対応を迫られた。そこで、まずは対面で実施計画を立てていた個人面接・集団討論・場面指導をオンラインで行うために計画を変更した。変更については、システムの「多数の学生が同時に参加できる」、「録画が可能」、「画面共有が可能」、「チャット機能がある」ことなどを念頭にオンライン会議システムの 1 つである Zoom[†]を利用することとした。あわせて、セミナーの参加者募集方法も従来は支援室に来室して申込表に直接記入する方式から、Google が提供するオンラインで利用できるスプレッドシート[‡]を利用する方式に変更した。Zoom を利用した個人面接練習においては、通常の対面式練習では講師と学生が 1 対 1 で行っていたところを、学生 3 名で一つのグループを作り、1 名が講師と練習している様子を 2 名が見学する形とし、学生相互に感想や改善点を述べさせた。集団討論・面接練習においては、チャット機能や画面共有機能を利用して、討論テーマや必要な資料を提示した。また、授業等で参加時間が十分とることができない学生には見学することも可能とし、練習の機会を広げるようにした。さらにセミナーオリエンテーション、三重県教育委員会教員採用試験説明会では説明者の許可を得た上で録画し、当日参加できなかった学生にオンデマンドで配信した。さらに一部の DVD 講座についても発行元の許諾を得て画面共有機能を利用して配信を行った。

[†] オンラインでの会議を実現するクラウド型のビデオチャットサービス。タブレット PC やスマートフォンからもオンライン会議に参加できる。 <https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

[‡] Google 社が提供している表計算ソフト。インターネットを介して使用する Web アプリケーションの一種であり、ダウンロードやインストール無しに利用できる。

オンラインによる学生指導は、以下に示すメリット・デメリットがあった。メリットは、オンラインにより時間、場所、参加人数の制約が緩和されたことに起因するものが主であった。一方でデメリットは通信環境や教材作成など一般的なオンライン講義と類似の事柄とともに、面接という言葉外の態度も含めた評価を伴う活動であるが故のものもあった。

○メリット

- ・対面では参加学生数に応じて使用する教室を考慮する必要があるが、オンラインでは教室が不要。
- ・仕事を持っている卒業生の場合、これまでは土日しか参加できなかったが、時間さえ配慮すれば平日でも参加可能であった。
- ・録画機能を利用することでオンデマンドでの動画配信が可能であり、多くの学生が時間や場所、回数を問わず視聴可能になった。
- ・配布資料を PDF ファイル化することでペーパーレス化とともに経費節減にもつながった。

○デメリット

- ・Wi-Fi 環境が不安定な学生がおり、途中で接続できなくなった学生がいた。
- ・PC を見る時間が長くなり身体的負担が増えた。
- ・オンデマンドの場合事前準備に時間を要す。
- ・人との対面ではないため緊張感を持ちにくい。集団討論等は「場の空気」が読みづらいため討論内容が深まるのに時間を要することがあった。

5. おわりに

本論文では三重大学教育学部教職支援センター教員養成支援部門の活動について紹介し、成果と課題を検討した。教員養成支援部門は、教員採用試験の受験者数および合格者数の向上を望む学生・保護者の声から設置された。設置から 15 年が経過したが、設置前の状況と比べ教員採用試験の合格率は 2 倍以上になっている。セミナー参加回数と合格率の間にも明確な相関が見られ、教員養成支援部門設置の効果は明確となっている。

一方で、近年の合格率は高い水準で推移しているものの、ミッションの再定義で社会に示した教員占有率を達成するためには、合格率だけではなく受験者数を増加させることが不可避であり、そのための対策の検討・実施、および実施内容の有効性の継続的な検証が今後ますます重要となっている。

また、教員養成支援部門の活動には教育学部父母連絡会および同窓会の協力が欠かせないため、今後も良好な関係を維持していくことも重要である。

引用文献

文部科学省 (2019). 令和元年度 (平成 30 年度実施) 公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント, https://www.mext.go.jp/content/20191223-mxt_000003296_111.pdf